当中間期の各事業の概況（連結）（2008年4月1日から2008年9月30日まで）

金属本部

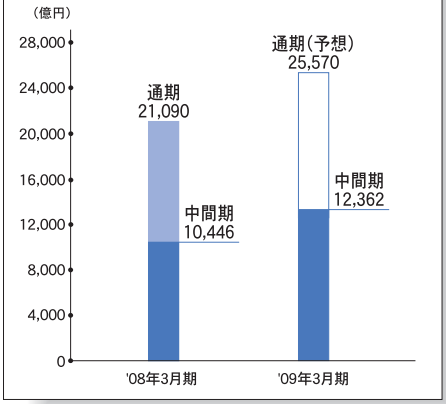
鉄鋼分野では、鋼材値上げなど市況上昇要因がある中、自動車向け需要は堅調に推移しました。

鉄鋼原料分野では、英国および北海道に工場内リサイクル会社を新設しました。

非鉄金属分野では、国内外のアルミ溶湯事業、アルミ加工事業の拡大に努めました。

これらの結果、売上高は1兆2,362億円となりました。

●金属本部の売上高



機械・エレクトロニクス本部

機械分野では、取引先の設備投資計画の延期・縮小の影響を受けました。

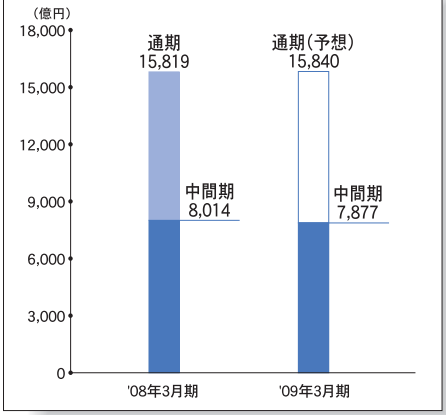
産業車輌建機分野では、北米、中国、ロシア等への販売体制強化を図りました。

情報・電子分野では、中国におけるトヨタグループ向けデバイス販売やタイにおける自動車組み込みソフトビジネスの拡大に努めました。また新規投資として、業務アプリケーションの開発拠点を中国に開設しました。

自動車生産用部品分野では、取引先の減産に伴い部品出荷の減少を余儀なくされました。

これらの結果、売上高は7,877億円となりました。

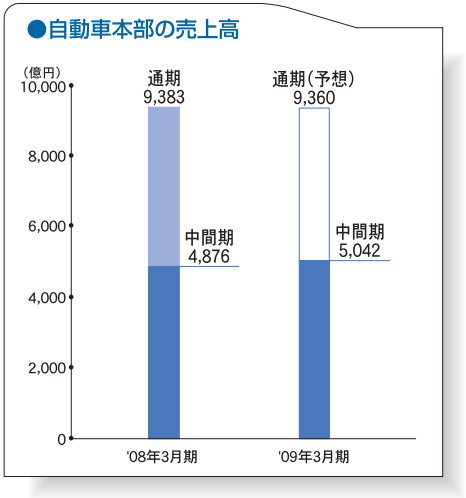
●機械・エレクトロニクス本部の売上高



自動車本部

中国、ロシア等の資源国/新興国を中心に海外販売拠点を拡張し、販売ネットワーク強化を継続して取り組みました。

これらの結果、売上高は5,042億円となりました。

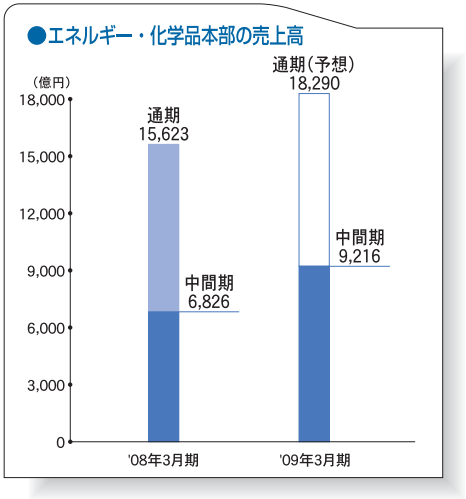


エネルギー・化学品本部

化学品合樹分野では、自動車・家電関連樹脂、化学品原料が順調に推移しました。　エネルギー・プラント分野では、原油、バンカー重油及び国内石油製品の拡販に取り組みました。

プラント関連では、カザフスタン政府系ファンドと肥料・発電関連共同事業のための覚書を締結しました。

これらの結果、売上高は9,216億円となりました。



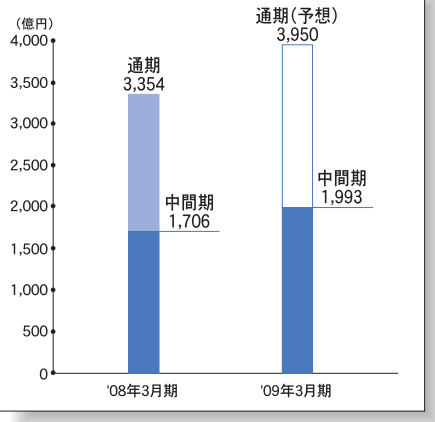
食料本部

穀物分野では、アジアにおけるサイロ事業など供給体制の構築に着手しました。また、穀物資源の安定調達に向けて、新規調達国の開拓に努めました。

食品分野では、食の安全に関する責任がますます高まる中、海外サプライヤーを厳選し、監査を行うなど管理体制を強化しました。また、より安心・安全な食品を供給することを目指し、野菜の国内生産事業を開始いたしました。

これらの結果、売上高は1,993億円となりました。

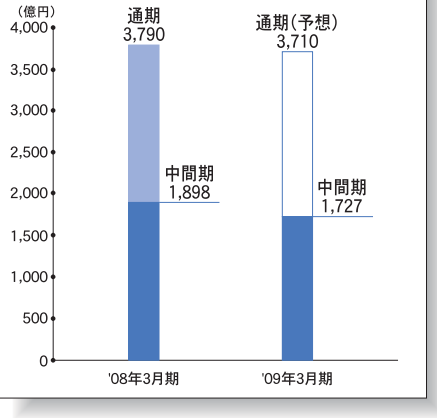
●食料本部の売上高



生活産業・資材本部

シニア関連分野では、介護用品販売の(株)ガット・リハビリィの全株式を取得するなど投資を行ない、介護用品事業を強化しました。

保険分野では、インド・バンガロール市の現地パートナーと合弁で保険ブローカーを設立し、現地企業および進出の相次ぐ日系企業に対して最適な保険プログラムの提供を開始いたしました。

これらの結果、売上高は1,727億円となりました。

●生活産業・資材本部の売上高